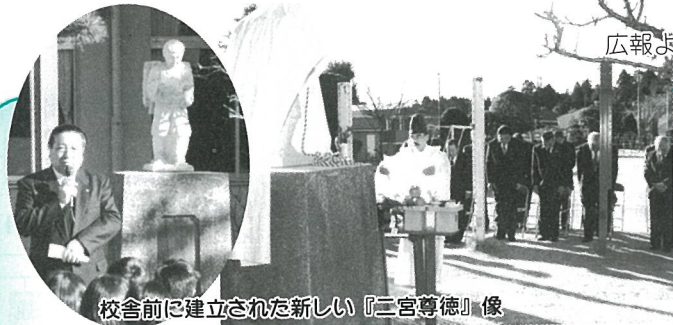


まこしば

大総小学校に 新しい「二宮尊徳」像を寄贈



校舎前に建立された新しい『二宮尊徳』像

どの小学校にも、校舎の前には薪を背負いながら本を読む『二宮尊徳』（金次郎）の像が必ず建っています。このほど大総小学校では、この『尊徳』像が老朽化したため、長倉にお住まいの柳橋敏博さんの寄贈によって新たな像が建立され、2月4日に町や学校関係者が出席して除幕式が行われました。

『二宮尊徳』は、江戸末期に相模の国の貧しい農家に生まれ、家計の手助けをしながら勉学に励み、後に、陰徳・積善・儉約を実行しながら殖産の事を説いて全国の605ヶ町村を復興させた篤農家あり、神・儒・仏の思想をとった報徳教の創始者でもあるそうです。

日本では、明治維新後に新しい小学校制度が確立されると、各地の尋常小学校で子どもたちの模範にと『尊徳』像が建てられたとのことですが、大総小学校の初代の像もこの頃に建立されたようです。

除幕式終了後、生徒を前にして實川長は「私も大総小学校出身で、この尊徳像を見ながら育ちました。今は、当時とは生活環境が大きく異なりますが、このようにして勉学に励んだ時代があったことを、みなさんも覚えておいてください」と話していました。

21世紀を元気に迎える 『伊能ウォーク』出立式



出立式で記念地図に署名する實川町長

2年間をかけて全国を歩く「平成の伊能忠敬・ニッポンを歩こう」の出立式が、1月29日、東京の「江戸東京博物館」で開催され、忠敬ゆかりの地などから約2,000人が参加して盛大に行われました。

この催しは、今から約200年前に、家業を隠居してから日本中の海岸線を歩き、我が国最初の実測地図を作成したことで知られる郷土の偉人『伊能忠敬』が歩いたコースをリレー式でじっくり歩き、忠敬と等身大の目で今一度日本を見直そう、という目的で行われているもので、忠敬が子どもの頃を過ごしたとされる当横芝町からも、實川町長をはじめ川島助役、伊藤議長など約40名のみなさんが参加。最初のコースの富岡八幡宮までの約3キロの道程をみなさん元気に歩ききりました。



江戸東京博物館を元気にスタート

町内の小学生などが

『伊能ウォーク』隊と一緒に歩く

47都道府県をリレー式で歩く『伊能ウォーク』隊が最初に歩く県は、忠敬の出身地である千葉県からで、当横芝町には出立式から約半月後の2月12日に訪れました。

この日の『ウォーク』隊は、早朝に九十九里町を出発してから海岸線を歩き、当町には午後1時過ぎに到着。蓮沼村との境である南川岸で、待ち受けていた上堺小学校と大総小学校の5・6年生、横芝敬愛高校の生徒約150人と合流した後『忠敬』が測量の時に宿泊したとされる屋形荒場の海保兵右衛門宅跡地まで一緒に歩きました。

子どもたちも『ウォーク』隊とともに歩いたことで、歴史の教科書でしか知らなかった郷土の偉人『伊能忠敬』を身近な存在に感じたようでした。



『ウォーク』隊とともに楽しく歩く子どもたち